

2005年7月21日

京都大学未来フォーラム（第16回）を開催

時計台記念館・百周年記念ホールにおいて、恒例となった未来フォーラムが開催されました。16回目となる今回は、本学文学部の卒業生で大阪府立中央図書館名誉館長・姫路文学館館長で本学名誉教授の上田 正昭氏に「日本の古代国家と東アジア-華夷の思想をめぐって-」をテーマにご講演いただきました。

歴史学の大家である上田氏は、まず日本の歴史を研究する場合には、近隣諸国の歴史をも含めて研究することが大切であることを述べられた後、古くから漢民族が持ち続けている中国が中心で周りの国はその属国であるとする、いわゆる「華夷の思想」を日本の古代国家の支配者も持っており、その思想は遺伝子として現在の日本にも引き継がれていることを、史実を挙げながら具体的に説明されました。その上で、「国際」的には紛争の火種を抱えている現代社会も、「民衆際」的には交流がうまくいっていることを説明され、欧州のEUのように、東アジアでも10年か20年後には、この「民衆際」の交流によって、一つの地域連合として友好関係を保つようになることを望んでいると述べられました。

